

## 第1回 府中市桜通り等改修事業検討協議会議事録

1 日時 平成24年9月7日(金)午前10時00分から午後0時00分

2 場所 府中市役所北庁舎3階第3会議室

3 出席者

(1) 桜通り等改修事業検討協議会委員

神庭正則	出席
福嶋司	出席
伊藤敏春	出席
長谷川光男	出席
藤澤光男	出席

(2) 事務局出席者

青木都市整備部長

栗石都市整備部次長

管理課 高橋課長

土木課 大原課長補佐

” 遠藤主査

” 高橋主査

” 曾田技術職員

(3) 傍聴者

0名

4 進行

(1) 会長及び副会長の選任について

(2) 桜通り等現状・課題について

(3) その他

5 資料

平成24年度第1階府中市桜通り等改修事業検討協議会

6 会議内容(協議結果)

(1) 次第1 会長及び副会長の選任について

福嶋司委員を会長に選任し、神庭正則委員を副会長に選任した。

(2) 次第2 桜通り等の現状・課題について

【協議会の意見】

(委員) この先どのような方向で進めていくのか、具体的に議論できるたたき台を提示してほしい。

(事務局) 老朽化した桜をどういう樹種に植え替えるのか、どの位置に植樹するのか、周辺の公共空間をどのように活用するのか、道路についてはバリアフリーに配慮した検討をお願いしたい。道路の構造や通行問題、桜祭りを今後どうしていくのか、桜に植え替えるのがいいのか、他の樹木がいいのかという点について周辺住民の意見や景観に配慮して協議していただきたい。

(会長) 平成22年に作成された再生基本方針(案)等に基づき協議していくのがよいのではないか。現地の状況や木の傷み方などをしっかり把握して検討していく必要がある。ハード面では道路幅員や機能確保が重要である。50年前に植えられた桜なので極力活用したいと思うが、今あるものをさらに良くするとともに、バリアフリーにも配慮し、交通に支障のない形で整備するよう検討していきたい。

(委員) ソメイヨシノより大きくなならない桜の樹種があるのか。

(委員) ソメイヨシノよりも大きくなならない品種は色々ある。しかし、樹種によっては病気になりやすい等、管理上の問題が出てくる可能性もある。バリアフリー化が目的ということだが、歩道を低くして整備することを考えているのか。

(事務局) 歩道部の高さを変えると、沿道敷地とのすりつけ部分に問題が起きるため、資料にあるように、車道部分を上げるセミフラット方式で検討することになる。

(委員) 会議の前提として、桜を残すのか残さないのか、そこをはっきりさせてから議論を行う必要がある。

(事務局) 周辺住民の意見に配慮する必要はあるが、桜を残すことを前提に協議をしていただきたい。

(会長) この会議では桜を無くすということを考えず、桜を残すことを前提によりよい状態にしていくことについて話し合うべきである。

(委員) 桜を無くすと言えば喜ぶ周辺住民もいるかもしれないが、その意見だけで桜を無くしてしまっているのかという話になる。

(事務局) 今後、周辺住民の意見を聞くためのアンケートを実施する予定である。地域住民は必要であると回答してくれると思うが、沿道住民は必要ないと回答することも考えられるので、どのようなアンケートにしていくかがとても難しい。ただし、アンケートは桜を残すことを前提としたものとしていきたい。アンケートの質問内容については今後検討する必要がある。

(委員) 国立市でも同じように桜並木の改修について協議を行っており、車道を狭めて桜の植樹帯や歩道を広くするという方針が出ていたと思うが、自分としては桜を残すべきであると思うため、公園や野球場など公共施

設が多い場所である地区特性を加味して、周辺施設も活用して整備していくことを検討すべきである。

(会 長) 周辺の公共施設を活用し、歩道の拡幅や植樹柵の位置等も含めた検討をしていきたい。

(委 員) 公園化してベンチを置くなど、そこで桜をゆっくり見られるようにするなど建設的に検討を進めたい。

(会 長) 現在の道路幅員は50年前から変わっていないのか。

(事務局) 50年前から変わっていない。当初はそこまで大きくなることを想定していなかったと思う。

(副会長) どの地域でも桜が成長して良い時期を迎えているが、同時に管理上の問題が発生している。人と桜が共存するためには、植え替えを適切に行う必要がある。狭いスペースに無理矢理育成することは植物にとっても良くない。ただし、安全性の観点のみで議論を行うのではなく、健全な桜については残すなどの考え方もある。

(会 長) 先ほど話のあった国立市の桜並木の場合には、桜が根を張るスペースが確保できている点が、桜通り等との違いである。そのため、沿道の公共空間に桜を植えるスペースを確保しながら、一括で植え替えることは難しいので、残す桜と切る桜を区別する考えが必要となる。どのように植え替えていくかを検討していくことが重要である。

アンケートによる地域住民の声は聞きたい。

(委 員) アンケートは作成の仕方で賛成にも反対にも誘導できるので、どのような内容にするかが難しい。今ある桜をどうしていくべきかを聞く必要がある。

(会 長) この場での議論としては、桜と残していくという方向である。

(委 員) 根上がりしている危険な場所が数カ所ある。根の状態と安全性を確認する必要がある。

(会 長) 本日の資料では、道路と公共空間、民有地の関係性が見えにくいので、次回の会議では、今回よりも大きな図面を用いて議論を行った方が良い。また、協議がある程度進んだ段階で住民説明会を実施すれば良いと思う。アンケートは今の段階で行うよりも、協議会の議論がもう少し進んだ段階で実施するのが良いのではないか。

(事務局) 次回の協議会でアンケートの案を提示させて頂き、ご意見を頂いてからアンケートを実施するのが良いと考えている。

(委 員) 現在の桜通りの状況と同じ失敗を繰り返さないようにしたい。

(会 長) 植物はどうしても大きくなってしまいうので、植樹柵の位置を変更等しない限り同じようなことになる。周辺の公共施設を活用するなどして、整備を行えるよう検討を進めたい。

アンケートの案を次回協議会で提示して頂きたい。

(委 員) 今後さらに高齢化が進むことを考えると、バリアフリーに配慮することは大切である。

(会 長) 現在問題が生じている桜に対しては、本協議会の議論とは別に、早急

に対応を行っていくべき。

(3) 次第3 その他について

ア 次回の日程について確認を行った。

イ 協議会后、現場視察を行った。

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長 福 嶋 司 

委 員 (伊藤委員) 伊藤敏春 

